

佐賀市立金立小学校 第7回 校内研究

# 金立小学校教育の質的改善

～新たな校内研究の取組の提案～



金立小学校ホームページはこちらからどうぞ  
<https://www.education.saga.jp/hp/kinryuu-e/>

学び部  
副島 和久




はじめに

- 学校としては日常？ 校内研究の営み
- それは本当に教師一人一人のためになっているのでしょうか？
- 教師にとっての「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両立は可能でしょうか？
- 学校の中の「当たり前」を少しでも見直してみる試み



## 金立小学校教育の質的改善

### 「質的改善」とは

- 
- これまで取り組んできたことに対して「それは何のために行っているのか」「そのことで子どもにどのような力が付くのか」「果たして本当に力は付いているのか」といったような視点で見直しを図り、本当に意味のある取組としていくこと
  - 新たな手立てやアイディアの導入を否定はしないが、それ以上に、まずは、今、取り組んでいることの質を上げることに注力することを求める。

## 私を感じていた これまでの校内研究における課題

- ➡ 「研究授業を行うこと自体は勉強になるが、そのことと普段の授業がなかなか結び付いていない」「授業研究会で学んだことを日々の授業に生かすことができていない」という声を聞く。
- ➡ 研究授業自体が一種のショーのようになっており、たくさんの先生が押し寄せてきて、授業者も子どもも明らかに日頃とは異なるテンションで、普段は行っていないようなことを行っており、日常とはかけ離れている感がある。
- ➡ 何となく全体的な「させられ感」が拭えず、研究主任になった先生は苦勞をしていた。
- ➡ 若手教師とベテラン教師では自らの課題も異なると思う。

## 個々の教師の課題解決を図る校内研究

### 【研究の目標】

- 「授業づくりチェックシート」(現在は「**授業づくりのステップ1・2・3**」)を基に、教師一人一人が自らの「強み」と「課題」を明らかにして、継続的に授業力向上を図ることで、児童が「主体的・対話的」に学ぶことできる授業を展開し、児童一人一人の「深い学び」の実現をめざす。

### 【研究の方法】

- (1) それぞれが年間4回の小グループ授業研と振り返り
- (2) 「**授業づくりのステップ1・2・3**」を活用した授業の見直し
- (3) 学期に一度と長期休業中の校内研で全体共有

## 校内研究の流れ その1 【年度初め】

- ① 「授業づくりチェックシート」を基に、自らの「強み」「課題」を洗い出す。
- ② 自らの授業における課題、及びその改善の手立てについて個人で考え、小グループ内で情報交換を図ってブラッシュアップする。
- ③ 各自が、授業を実施する教科、時期、単元(題材)などの計画を作成する。
- ④ 全体研において、それぞれが取り組む課題や授業実施計画について公表し、全体で共有する。



# 授業づくりのステップ 1・2・3 佐賀県教育委員会 作成

**いつでも！どこでも！だれでも使える！**  
**授業づくりのステップ 1・2・3 Vol.1**  
平成 29 年 2 月 佐賀県教育委員会

このリーフレットは、子どもたちにとってわかりやすい「授業づくり」に向け、佐賀県の先生方の授業がよりステップアップできるよう活用してもらうことを目的に作成しました。

それぞれの先生方が、子どもたち一人ひとりの「わかりたい」、「できるようにになりたい」という思いや願いを大切にしながら、日々の授業を振り返るとともに、授業をさらにステップアップさせることで、子どもたちの「学ぶ力」をより一層向上させることができます。

全ての小中学校の先生方の全ての授業において、子どもたちにとってわかりやすい授業、力の付く授業を目指していきましょう。

**使えるポイント その1**

- ・ **いつでも使えます！**  
授業の前に、教材研究に取り組む時に、指導案をつくる時に、いつでも使えます。
- ・ **どこでも使えます！**  
教室で、職員室で、校内研修で、どこでも使えます。
- ・ **だれでも使えます！**  
経験豊富な先生も、若手の先生も、だれでも使えます。

**使えるポイント その2**

日々の授業づくりにおける大切な事柄の中から、「めあて」、「まとめ」、「書く活動」、「話し合う活動」、「振り返り」の5つに焦点をあて、それぞれについて3つのステップで示しています。今日の授業はどのステップなのか、チェックしてみましょう。

- **ステップ1** 佐賀県の多くの先生方が、すでに実践していると考えられるステップです。
- **ステップ2** 佐賀県のスタンダードとして、全ての先生方に実践してほしいと考えるステップです。
- **ステップ3** ステップ2を実践している先生方に、次に目指してほしいと考えるステップです。

**授業づくりのステップ:「めあて」の提示について**

授業の中で「めあて」を示す目的は、この授業で何ができるようになるか、何をどのように考えればよいのかという、学習の目的や方向性を示し、1時間の見通しを子どもにもたせるためです。そのためには、教師がその授業で子どもに付けさせたい力を明確にする必要があります。

- **ステップ1** 授業の中で「めあて」を板書し、子どもに示していますか？
- **ステップ2** 「めあて」は、子どもにとって理解できる内容になっていますか？
- **ステップ3** 「めあて」は、1時間の授業で何ができるようになるか、何をどのように考えればよいのかなど、子どもが具体的にイメージできるものになっていますか？

※例えば…  
長方形の面積は求めることができるけど、□のような形の図形は、どうやって面積を求めればよいのかなあ。  
じゃあ、今日の学習のめあては、「□の面積の求め方を考えて説明しよう」でいいですか？

**授業づくりのステップ:学習内容の「まとめ」について**

授業の後半に学習内容の「まとめ」を行う目的は、「めあて」に沿って学習したことを客観的に見つめ直し、短い言葉でまとめることで、「何がわかったのか」「結果からどんなことが言えるのか」「この先に生かせることはどんなことか」など、子どもが、学んだことを具体的な力として自覚できるようにするためです。

- **ステップ1** 学習内容の「まとめ」を板書していますか？
- **ステップ2** 「まとめ」は、「めあて」に対応したものになっていますか？
- **ステップ3** 子どもの発言を取り上げながら「まとめ」を行うことやキーワード・文の書き出しなどを示して、子どもが「まとめ」を行うことができるようにしていますか？

※例えば…  
なるほど、じゃあ、今日の学習のまとめは、「□の面積は、長方形にすれば求めることができる」でいいですか。  
2つに分けたり、足りないところにつくくわえたりすれば面積を求められました。  
長方形にして考えたらいいと思います。

令和7年度から、「授業づくりチェックシート」に代わり、自分の授業を見直し素際の視点として、活用している。

「めあて」「まとめ」「書く活動」「話し合う活動」「振り返り」の5つの視点と3つのステップで示されている。

# 「強み」と「課題」の洗い出し

令和5年度 小グループ研 個人の強みと解決に取り組む課題 一覧

| 番号 | 学級    | 氏名                | 強みと考えられること   | 今年度解決のために取り組む(取り組んでいる)自分の課題   |
|----|-------|-------------------|--|---|
| 1  | 低学年担任 | A先生<br>(教職6年経過)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧に見通しをもたせること</li> <li>○ルールを一つ一つ確認し、徹底できるように粘り強く指導すること</li> <li>○配慮を要する児童にいろいろな手立てをとること</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇前時までを振り返ってから、本時のめあてを立て、毎時間、板書することを心がける。</li> <li>◇1時間の振り返りをする(少しずつ言葉で書かせるように練習していく)</li> <li>◇学習のルールを再確認しながら、ペア活動の機会を増やしている。</li> <li>◇児童が主体的に取り組むことができるように、導入の工夫をする。</li> <li>◇伝え合う活動に入る前に、どんなことを話すといいか、伝え合う観点を児童に伝える。</li> <li>うまくできているペアや内容を紹介し、周りに広げていく。</li> </ul> |
| 2  | 低学年担任 | B先生<br>(定年退職後、講師) | <ul style="list-style-type: none"> <li>○単元で身に付けさせたい力、単元のつながりは、理解している。</li> <li>○児童の実態を知りたいという気持ちは強い。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇解決したいと思わせる問題提示。</li> <li>◇既習内容と本時の違いを意識させる。</li> <li>◇小グループでの時間を設定し、表現する場を多くもつ。</li> <li>◇まとめの後の練習時間を5分は確保する。</li> </ul>  |
| 3  | 低学年担任 | C先生<br>(新規採用)     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時、声の大きさを工夫して説明したり、抑揚をつけて話すことができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇めあてに対応した適切なまとめを行う。</li> <li>◇授業内容に合っためあてを提示し、児童が取り組みたいと思える内容の授業を行う。</li> </ul>  |

小グループにおいて、情報交換を通じて、ブラッシュアップを図る。  
最終的に、一覧表にまとめ、全体会にて 各自が宣言する。



## 年間の計画

学期毎に進捗を確認し、適宜、修正

令和5年度 校内研 小グループ研究授業 公開一覧 3月22日現在

[illegible]

## 校内研究の流れ その2 【事前】

- ① 1週間前までに実施する校時、教科、単元などを研究主任と教務主任に伝える。
- ② 教務主任は小グループのメンバーが授業参観できるように調整を図る。
- ③ 課題改善の手立てを記した「授業構想シート」を作成し、2日前までに全教職員に配付する。
- ④ さらに、所定の場所にデータを保管し、いつでも誰でも見ることができるようにしておく。

# 授業構想シート

学習指導案の代替として使用

## 【項目】

話題にする柱はここ→

解決を目指す自分自身の課題

2 単元(題材)名

3 単元(題材)の評価規準

授業のゴールはここ→

本時に位置付ける評価規準とおおむね満足できる(B)と判断する目安

5 目標実現 及び  
自らの課題解決のための手立て

第○学年○組 ●●科 授業構想シート

○月○日○校時 教室  
指導者 ○○○○

3 単元(題材)の評価規準

| 知識・技能 | 思考 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----|---------------|
|       |    |               |

4 本時に位置付ける評価規準

| 本時の評価規準 |                  | おおむね満足できる状況(B)と判断する目安 |
|---------|------------------|-----------------------|
| 知・技     | 3観点をすべて位置付ける必要なし | おおむね満足できる状況(B)と判断する目安 |

5 目標実現及び自らの課題解決のための手立て(試み)

| 児童の活動<br>(ポイントとなる箇所のみでよい) | 教師の活動 |
|---------------------------|-------|
|                           |       |

※A4用紙1ページに収まるようにする。行間、フォントサイズは自由に調整してよい。

## 校内研究の流れ その3 【本時】

- ① 参観するメンバーは、授業の妨げにならないように参観する。(勝手に指導したりしない)
- ② また学年に応じて、参観者が来る旨とその理由を児童に説明し、普段通りの授業が行われるようにする。
- ③ 授業者、参観者(必要に応じて児童)は、授業後に評価シートを用いて簡単な評価を行い、記録しておく。

参観している同じグループの先生たち  
この日は教育実習生もいましたので、3人ですね。



## 校内研究の流れ その4 【事後】

- ① 授業者と観察者は、評価シートを用いた評価の結果を参考にしながら、できるだけ間を置かず、小グループでの振り返りを必ず行う。
- ② 評価結果を参考にしながら、授業者と観察者の評価において明らかになった相違点などを話題にするとよい。
- ③ 授業者は、振り返りを基に授業の記録を残すとともに、新たな課題を設定し、次回にむけて授業改善に努める。

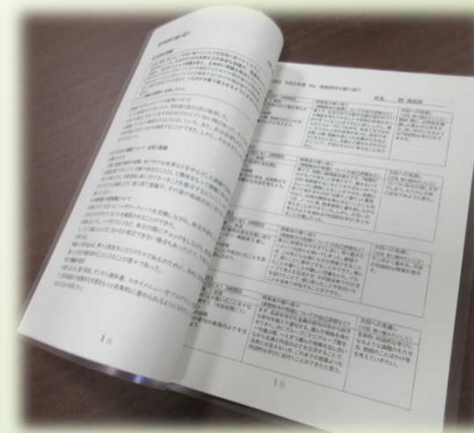
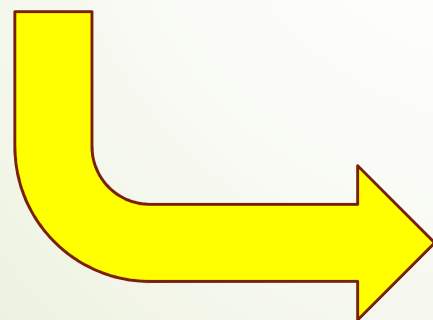
小G研の授業を行った日の放課後  
グループでこの日の授業のことで和やかな振り返りが行われています。





## 校内研究の流れ その5 【年度末】

- ① 年間を通して、4回の授業記録をまとめるとともに、年度末に自分の課題の解決状況や次年度に向けての新たな課題などについての振り返りを行い、レポートをまとめる。
- ② これらを取りまとめて「**研究のまとめ**」とする。



# 研究のまとめ 各自、A4 2ページ

金立小学校 令和5年度 My 授業研究の振り返り

氏名

【1回目】

| 10月24日(火) 5時間目   | 授業後の振り返り<br>(課題解決の取組についての自己評価など)   | 次回への見通し<br>(次回、取り組みたいこと)                                  |
|--|--|---|
| 教科等 家庭科<br>単元 「食べて元気！ご飯とみそ汁」<br>(5/10)<br>小単元など<br>本時の目標<br>・だしのよさを考えよう。 | ・めあての板書をせす活動に入ってしまった。<br>・めあての提示の徹底<br>・グループ活動で、一人一役を振り分け、全員が発言したり、仕事をしたりできるようにする。<br>・飲み比べて、だしの良さについて考えることで、子どもたちが思ったことを、子どもの言葉で共有することができた。 | ・めあての提示の徹底<br>・グループ活動で、一人一役を振り分け、全員が発言したり、仕事をしたりできるようにする。 |

【2回目】

| 11月 8日(水) 2時間目  | 授業後の振り返り<br>(課題解決の取組についての自己評価など)  | 次回への見通し<br>(次回、取り組みたいこと)              |
|---|---|---------------------------------------|
| 教科等 算数<br>単元 「平均」<br>(3/5)<br>本時の目標<br>・0の入った平均の求め方を考えよう。 | ・前時の問題との違いに気付かせたことで、様々な考えを引き出すことができた。<br>・児童が自分の考えを説明したことで、聞いている児童だけでなく、説明をしている児童もしっかりと考えることができた。<br>・グループ活動が短く、全員が考えを説明できていなかった。 | ・活動の時間配分を考え、全員が考えを共有し、深めることができるようにする。 |

【3回目】

| 12月 14日(木) 3時間目   | 授業後の振り返り<br>(課題解決の取組についての自己評価など)  | 次回への見通し<br>(次回、取り組みたいこと)                          |
|---|---|---|
| 教科等 算数<br>単元 「四角形と三角形の面積」<br>(7/11)<br>本時の目標<br>・台形を違う形に変えて面積を求めよう。 | ・図形を変形し、自分の考えを言葉や図で書き、説明することができる児童がいたことはよかった。<br>・一人でタイムの時間を多くとってしまい、みんなでタイムの時間が短く、考えを深める時間があまりとることができなかった。 | ・子供の考えを分かりやすく共有するための教材の準備。<br>・考えを共有し、深める時間を多くとる。 |

【4回目】

| 3月 5日(火) 4時間目  | 授業後の振り返り<br>(課題解決の取組についての自己評価など)  | 次回への見通し<br>(次回、取り組みたいこと)                                    |
|--|---|---|
| 教科等 体育<br>単元 「バスケットボール」<br>(7/7)<br>本時の目標<br>・フリースペースに入り、パスを回して、シュートにつなげることができる。 | ・準備運動の際に、パスやシュートの練習を、ゲームを想定し工夫して行うチームがあったことはよかった。<br>・フリースペースを見つけ、自分から動いてパスをもらおうとする児童が多く、良かった。<br>・チームで作戦を考えたり、ゲームの後に振り返りをしたりする時間を十分にとることができなかった。 | ・児童が自分からポイントを考えられるような問いかけを行う。<br>・作戦タイムや、振り返りの時間をしっかりと確保する。 |

校内研究の振り返り

〇〇〇〇(5年1組担任)

自分自身の課題

・児童が興味・関心を持てるような導入の工夫  
・考えを深めるための発問や活動方法の工夫  
国語 言葉 → 辞書の活用  
算数 計算 → 意味を考えさせる + 繰り返し練習 等

○授業づくりチェックシートの活用について

- ・「めあて」や「まとめ」の板書をどの教科でも心掛け、つながりを意識することができた。
- ・「ひとりでタイム」や「みんなでタイム」など、活動の工夫を児童の学習の真摯に合わせて工夫することができた。
- ・振り返りの時間を十分に設定することができないことが多くあったので、今後は振り返りの時間を設定することができるように、導入や活動の時間配分を考えていきたい。

○自分自身の課題について

① 児童が興味・関心をもてるような導入の工夫

- ・前時の内容を振り返りながら、実生活のことと結び付けながら行った。そうすることで、学習の見通しをもちつつ、自分から取り組むようになった。

② 考えを深めるための発問や活動方法の工夫

- ・算数の特に「図形」の学習では、公式を覚えるのではなく、最初に図形を示し、違う形に変えたり、解くことができる形に分けたり、自分なりに解く方法を考えることができる工夫を行った。
- ・国語の学習では、分からない言葉には線を引き、辞書を使って意味を調べさせるようにした。また、意味調べて分かったことを共有することで、学級の中でより言葉の意味を深めることができるようにした。


○取組の成果と課題

【成果】

- ・高学年グループの先生方の授業を見せていただき、発問や活動の工夫など、とても勉強になった。いろいろな教科を見ることで、算数以外での工夫を知り、多くの教科で生かすことができた。
- ・先生方に参観していただくことで、板書や発問、活動方法など、自分のできていないことを見直し、さらに工夫して行うための方法を学ぶことができた。

【課題】

- ・グループ活動を行う際に、一人一人の役割を決めたり、発言する順番を提示したりして、全員が意見を発言し、役割をもてるように活動を仕組んでいく。
- ・児童の考えをより深くするために、児童の発言に対する発問を工夫したり、共有・説明する場を設けたりしていく。



## おわりに

- 最終的に求めるべきは子供の変容(成長)ではあるが、まずは教師自身が変わること(成長すること)を促す。
- 教師自身の「気付き」を促すことが大切である。そのために「他者のまなざし」を入れることが必要である。
- 「～ねばならない」研究ではなく、(少し楽しみながら)「～したい」と思える研究になるとよい。
- 基本的に、個々の教師の「主体性」を信じ、「主体性」に委ねる研究である。
- 「普段の授業を不断に見直す」ことができるようになるための研究と捉えている。